

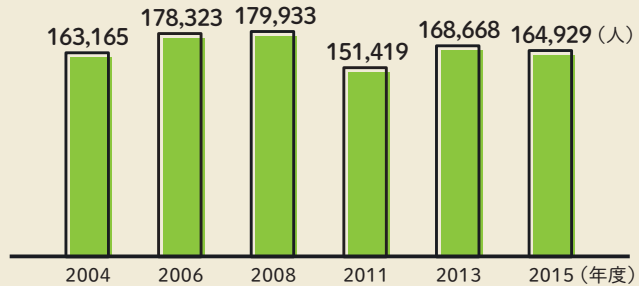


海外修学旅行の今

「何を経験し何を学ぶか」が重視される方向へ

2015年度、海外修学旅行を経験した高校生は16万人超で、ここ数年の「数」の推移は横ばいだ。一方で、その「内容」は着実に変化。海外に行くこと自体が目的ではなく、海外のフィールドを使って「何を経験し何を学ぶか」が一層重視されるようになってきている。例えば、グローバル社会で求められる資質・能力の育成を明確に打ち出し、高校の学びの集大成として位置付けたり、キャリア教育として設計したりする学校も。希望者だけではなく学年全体で取り組む修学旅行だからこそ、日常の教育活動との連動を図ることで幅広い生徒の成長が期待できそうだ。

海外修学旅行の参加生徒数の推移(高等学校等)



出典：文部科学省調査「平成27年度高等学校等における国際交流等の状況について」

3年間の探究学習の一環として 学科の学びに合う3コースを実施

富士市立高等学校(静岡・市立)

「総合探究科」「ビジネス探究科」「スポーツ探究科」の3つの探究科をもつ富士市立高等学校。全学科において、総合的な学習の時間を核とした探究学習に取り組んでいる。2学年の修学旅行(海外探究研修)も、単発イベントではなく、3年間の体系的な探究学習の一部という位置付けだ。「見識を広げ、探究力を試す」を共通テーマに、各学科の特性に合わせた行先とプログラムを設定。1学年から学んできたことについて、海外と比較したり、視野を広げて点検したりする機会としている。



ボストンで現地高校生と。

「海外旅行経験のない生徒が多く、研修では『価値観がひっくり返った』といった声も。次のステップに向けて自ら動き出すきっかけになっています」(富士市教育委員会 富士市立高等学校教育推進担当 指導主事 遠藤 健さん)

研修後の授業や学校行事では、意識的に生徒主体の活動を拡大。研修で醸成された意欲や主体性を活かす場を用意している。

「海外探究研修」の概要 ※2017年度の場合(12月/6日間)

学科	総合探究科	ビジネス探究科	スポーツ探究科
行先	アメリカ(ボストン)	台湾(台北)	オーストラリア(ゴールドコースト)
主な内容	現地大学の学生へのプレゼン・意見交換、現地高校生との交流など	現地企業での研修、現地高校での授業体験や生徒との交流など	スポーツセンターでの体験的な活動、現地の学生とのスポーツ交流など
費用	約24万円	約16万円	約24万円

●学校プロフィール >> 学科：総合探究科・ビジネス探究科・スポーツ探究科／入学定員：計240人／進路(2018年3月卒業生)：大学85人・短大26人・専門学校72人・就職44人・その他6人

タイでの異文化体験旅行を 生徒主体でプロデュース

かえつ有明高等学校(東京・私立)

かえつ有明高等学校の「高校新クラス」*の修学旅行は、行先からプログラムまで生徒主体でプロデュースする。学校から提示する条件は、「学びがある」「安全である」「学校が定める予算と時期の範囲内」の3点。これらをクリアすれば行先は国内でも海外でもよく、活動内容も自由だ。

「自由で楽しそうに思われますが、白紙状態から、全員の合意形成を図りながら創り上げていくのに、毎年とても苦労しています。そのプロセスにおいて、与えられたものにはない難しさと面白さに気づき、1人ひとりが何かを学び取る機会にしてほしいと考えています」(福富高彦先生)

今年度は生徒から海外の2案があがった。単なる多数決ではなく、どうすればみんなが納得した選定ができるから議論。紆余曲折の末、「高校生のうちから国際体験を積み、これからのグローバル社会のために視野を広げる」をテーマにタイへ行くことを決めた。活動内容は一人ひとりが書いた企画書を集約して基本案とし、旅行会社と相談しながら進めている。

「タイで現地の人にふれるなか、日本との価値観の違いにおおいにショックを受けてほしい、と期待しています」(同)

*本質的な学びの実践を掲げて設置したコース



自分たちのプランを保護者にプレゼン。

「高校新クラス」修学旅行の概要 ※2018年度予定

行先	タイ(バンコクなど)		
主な内容	現地大学生とのディスカッション・交流、スラム街孤児院訪問		
時期・期間	10月/6日間	費用	約15万円

●学校プロフィール >> 学科：普通科／入学定員：80人(ほかに内部進学約160人)／進路(2018年3月卒業生)：大学127人・専門学校4人・その他16人